

第2回 伊勢市公共施設等総合管理計画検討委員会議事録(公開用)

1. 日時 平成27年3月25日 水曜日 午前10時～午前12時
2. 場所 御園総合支所2-4会議室
3. 出席者
 - (1) 委員出席者
筒井委員、河村委員、奥出委員、加藤委員、森本委員
 - (2) 市出席者
森井情報戦略局長、椿情報調査室長、中川情報調査係長、西澤
4. 議事
 - (1) 前回の振り返り

市

- ・前回資料4 伊勢市公共施設等総合管理計画(原案)の概要を振り返って説明した。
- ・資料1 第1回委員会の振り返りの内容を説明した。

委員

- ・この検討委員会での意見の取扱いについて確認したい。

委員長

- ・設置要綱にもあるとおり、「知識経験を有する者等」が「それぞれの立場から意見を述べる」とのことなので、委員会として意見は集約せず、市にそのまま渡す。

委員

- ・インフラについては削減目標に掲げられていないが、毎年50億円程度更新費用が見込まれている。
- ・言葉としては載っているが、削減目標にないというのは気になる。

市

- ・橋梁などは住民にとって非常に大きな公共サービスに関わることなので、数値目標で掲げる種類のものではないと考え、そのようにしている。

委員

- ・数値目標に掲げないにしろ、長期の修繕計画を立てていくべきではないか。
- ・水道の耐震化についても現状と今後の見通しを掲げるべきではないか。
- ・本庁舎の改修については近々15億円をかけて行うこととしているが、かなり大きな額となるので、今回の計画とどう関係するのか。

市

- ・【基本方針編】の試算はH25年度末時点の施設データをもとに機械的に行っている。
- ・本庁舎の改修が実際に15億円かかると見込まれているが、【基本方針編】においては個別には考慮に入れず、あくまで機械的な算出による。

- ・今回の本庁舎の改修のように、実際にかかる金額が大きく、分かっているものであっても、40年で約1800億円かかるという試算から、その都度それぞれの部分を置き換えて微調整をすることはしない。

委員

- ・投資的経費は(原案)ではインフラも含めた1.2倍で示しているが、白書では公共施設のみで1.6倍としていた。
- ・目標値の設定を公共施設のみで示しているのだから、やはり白書で示した1.6倍となるのではないか。
- ・現状の厳しさを訴えるためにも、1.6倍を示す方がよいのでは。
- ・第2章の天秤のイメージ図について、市は両者のバランスが大事(どちらも大事)を図化しているという説明だが、天秤にかける(どちらか一方)というふうにもとれ、分かりにくくなっているので、検討をお願いしたい。
- ・白書には「市民ニーズの変化に対応した社会資本整備の必要性」という表現があり、(原案)では「変化に対応した」という大事な表現が抜け落ちていると思う。
- ・白書には「40%の削減が必要」とあり、(原案)では15%と半分にも満たない目標なのはいかがなものか。
- ・せめて20%くらいは設定し、その上でもっと努力をして40%となるが、もっと危機感を持った計画にしないとまずい。

市

- ・数値目標についてはこの検討委員会で最もご意見を頂戴したいと考えている部分である。
- ・この15%が適正なのか、そもそも設定することがよいのか、そのさじ加減についてご意見をいただきたい。
- ・委員の仰るとおり、数値目標を公共施設のみで掲げるのであれば、課題も公共施設のみでの見通しを明記すべきというのはもっともなお考えである。
- ・また、インフラは今のところ削減しないとしているが、削減を全くしないとは言っておらず、先の長い話で結論は出しにくい。

委員長

- ・資料4を作っていたのだが、挿入される箇所としては(原案)の12ページの後、13ページの前ということで、これでよいと思う。
- ・施設の具体名が挙がっていたり、数字で表現されているところは書ききることは難しかったのか。

市

- ・誰もが知っている観光文化会館などの施設名は挙げたが、ほかは省略した。

委員長

- ・先ほど委員の話もあったが、本庁舎は【基本方針編】では試算ソフトの中で機械的に処

理されるとのことだったが、【用途別・地域別編】では入ってくるということではないか。

市

- ・そのつもりである。全ての公共施設が対象となっているので。
- ・個別施設計画が先にできているものもあるが、本来的には【基本方針編】があり、【用途別・地域別編】があり、それにもとづいて個別施設計画を策定するのが本来の流れである。
- ・庁舎については、本庁舎について話に上がっているが、それ以外にも総合支所や支所を総合的に考える必要がある。
- ・また、本庁舎については、耐震化や浸水対策が既に進んでいるが、他の施設も踏まえて実施計画を作っていく必要がある。

委員

- ・前回、役所言葉が多いと指摘をし、用語集を作ってもらったが、分かりやすくなった。
- ・これからも読み手を意識していただきたい。
- ・数値目標が何%が適正かは分からないが、目標設定をすることが大事だと思う。
- ・そのために資料を提示してもらって、委員として意見を申し上げたい。

委員

- ・用語集の中で「合併算定替」という言葉が出てくるが、「合併特例債」についても関連して説明してもらおうと理解が進むと思う。

委員長

- ・PFI/PPP についても用語集に入れていただきたい。
- ・「財政負担の軽減及び平準化」の平準化の部分については、本編で説明をしていただきたい。

市

- ・更新の試算のグラフを見ると、山と谷がある。
- ・更新費用が一斉にかかってくるのが問題なので、一般的にこの山を均して平準化していくことが必要だということを示しており、仰るとおり説明することとしたい。
- ・そもそも、公共施設の更新問題の根底にあるのが、高度成長期を中心にまとまって施設が建てられたということで、その更新時期により山と谷ができる。
- ・それをなだらかにすることが、平準化として掲げているところである。

委員

- ・(原案)の1ページ目に「何らかの取組みが急務」とあるが、長寿命化と施設の統合という2本柱を冒頭にもってくるべきではないか。
- ・児童生徒数とは何か。

市

- ・小学生、中学生を意味しており、試算ソフトの仕様で入力することとなっているが、表現を工夫するか、用語集に記載することとしたい。

委員

- ・記述の仕方だが、23 ページの(3)、(4)、(5)は、全く同じ表現が反復されており、整理した方がよい。
- ・安全確保、耐震化、長寿命化それぞれの表現があれば、項目をまとめてもいいのでは。

市

- ・総務省の指針やチェックリストを受け、その分け方に倣っている。
- ・内容としては、先行する個別施設計画の表現を受けつつ、全ての公共施設等に言えるように表現を調整した結果、同じような文言になった。
- ・書きようはあると思うので、整理したい。

委員

- ・修繕計画について、マンションだと長期修繕計画を立て、それにのっかって積み立てをする仕組みがある。
- ・足場をかける時期にそれに必要な大きな修繕をまとめたり、それにかかる費用を整理したりする。
- ・こうした長期修繕計画、それによる積み立てについて、市ではできないか。

市

- ・一般的には一般会計というものがあり、市の中では一番大きな財布になる。
- ・そこで積立金はできるが、個別には今のところやっていない。
- ・全体的には財政調整基金という積立金のようなものがあり、大きな括りで120億円くらいのものであるが、それで今は調整している。
- ・水道や下水道など、企業のような企業会計を運営しているところでは、場合によっては修繕にかかる引当金を留保しながらやっているところもある。
- ・今後、そのように将来的にかかる金額を明らかにし、計画的に財源を確保していくようなかたちになっていくと思う。
- ・積立金はできないことはないが、役所のことなので制度を作らないといけないので、今はやっていない。

委員

- ・平準化という意味からも、そうしていけばいいのでは。

市

- ・今後そういった考え方を入れていかないといけない時代になってきているとは思いますが、至っていない状況である。
- ・積立金については、個別計画のところ、そういったことも検討すべきであるといった表現は書いていくことはできると思う。

委員

- ・前もって準備しておくことは大事だと思うが、個別に細かく基金を作っていくことは現実的ではないと思う。
- ・次の段階でもう少し落とし込んでいくといいのでは。

市

- ・ひとつひとつの個別施設計画を書いていくのはまだまだ時間のかかる話だと思う。
- ・それぞれに積立金を作るのは非常に大変なことになる。
- ・もう少し大きな枠組みで、公共施設等修繕基金というようなものを作っていくことは可能だと思うが、それが将来的にいくら必要かを言い切るのは難しい。

委員

- ・22 ページの(1)で、「研修を受けた技術者が担当する」とあるが、市職員がやるのかアウトソーシングするのか。
- ・誰がやっていくのかははっきりと書いた方がいい。

市

- ・どちらの可能性もありうるので明記していない。
- ・ある程度専門性が担保された技術者による点検自体は、今後していかななくてはならないと思う。
- ・総務省でもそういった点検をする業務が、仕事として大きくなるかもしれないと見られている。
- ・敢えて書くとすれば、「職員又は委託業者により」と両者を併記することになると思う。
- ・現実的には役所の業務として、委託という形態を取ることが多くなってきており、明言は難しい。

委員

- ・主語としては「市は」となるだろう。
- ・市が最終的な責任を取るべきだが、実務上は職員でも委託でもよいと思う。

市

- ・仰るように責任は市にある。
- ・実際にやるときには、職員が行うか委託に出すかはそのときどきの判断になると思う。

委員長

- ・第3回検討委員会でも意見を言っていた機会があるので、そのときをお願いしたい。

(2) 他自治体の状況と本市の数値目標について

市

- ・資料5 他自治体基本方針比較について説明した。

- ・資料 6 伊勢市の数値目標算出シミュレーションについて説明した。
- ・本市の数値目標は先行する個別施設計画や関連計画の見通しから、+α を考えて 15%と設定している。
- ・他自治体の数値目標の出し方を参考に、本市でもいくつかのシミュレーションを行った。
- ・人口のピーク時あるいは現在人口から、将来推計人口を考慮すると、約 30%の削減目標が設定できる。
- ・ここ 5 年の投資的経費の実績から、今後 40 年の投資的経費を同じ水準にしようとする
と 40%、数値の取り方によっては 50%以上の削減目標を設定することになる。
- ・投資的経費に、施設サービスにかかるコストを加味して考えると、約 30%の削減目標が
設定できる。

委員

- ・もう少し本市と比較できるような類似の都市について、数があるとよいが。

市

- ・計画策定は他自治体でも一斉に取り組んでいるところで、資料 5 はホームページ等から
確認できたものを集めたものである。
- ・それぞれの考え方には課題もあり、人口減少の度合いから算出する方法は、今の施設
面積を適正と仮定しているが、それがいいのかどうか。
- ・投資的経費からの算出は、ここ 5 年を基準としているが、大きく変動することもあり、根
拠としては流動的な部分もある。
- ・施設サービスにかかるコストを加味する考え方は、サービス自体がなくなることを前提と
してしまっており、本市の考え方には合わない。

委員

- ・新規整備を今後予定しているのに、15 ページに「新規整備を行わないと仮定しても」とい
う言葉を入れることはいかがなものか。
- ・課題として 1.2 倍と掲げているが、その数値を掲げることで目標がぼやけてしまわない
か。
- ・個人的には面積よりも、お金の「入り」と「出」に着目することに慣れている。

市

- ・委員のおっしゃるとおり、本来的には財政面からの切り口で見ていくべきだと思う。
- ・ただ、財政収支の見通しは 10 年はできるが 40 年という長期スパンで考えるのは難しい。

委員

- ・資料 6 にある 14.5%は、計画としてはすでに策定済みだとされているが、すでに決まって
いる数値なのか。

市

- ・決まっているわけではない。

- ・それぞれの用途として廃止が見込まれているが、例えば学校であれば転用したり、避難所としての位置づけがあったりして、実際に削減しないところもあるかもしれない。
- ・そういったところも踏まえ、全体を見通して+ α を考え、15%にとどめた。

委員長

- ・現実的な数値ということで設定したということ。
- ・数値目標は大きなテーマなので、次回にご意見をいただきたい。

(3) その他
なし

5. その他

- ・次回委員会の日程調整
(省略)